令和２年度　第１回学校評議員会　議事概要

１　日時　令和２年６月 24 日(水)　15 時 30 分～16 時 35 分

２　場所　東生会館２階　大ホール

３　出席者(敬称略)

学校評議員　６名

増田　泰之　　同窓会会長(同窓会関係者)

柳谷　郁子　　知識人・作家(学識経験者)

江口　益男　　民間企業(企業関係者)

瀧川　吉弘　　地域代表・自治会長(自治会等関係者)

石田　和也　　保護者代表・PTA 役員(保護者)

村上　忠幸　　大学教授(学識経験者)

校内委員メンバー 12 名

臼井　研二(校長)、山田　潔(特任専門官・SSH 担当)、藤原　勝博(教頭)、松井　康文(事務長)、肥塚(総務部長)、川勝(SSH 推進部長)、有馬(生徒指導部長)、中山(進路指導部長)、髙濵(学校評価委員長)、勝木(１年次主任)、小谷(２年次主任)、岩井(３年次主任)

４　内容

(1)　校長挨拶

111 年目を迎える本校は、伝統を大切にしながらも様々な刺激を受けて、変わるべきところは変わっていかなくてはならない。学校、教員に対して社会の声を届けてほしい。

(2)　学校評議員自己紹介

(3)　学校からの現況報告等

①　学校概要　(教頭)

(ｱ) 昨年 110 周年記念式典を終え、令和の白壁、弥生の庭が整備された。

(ｲ) 現在１学年７クラス、831 名の生徒が在籍している。

～部活動紹介のビデオ上映～

(ｳ) コロナウイルスの影響で、４月８日に入学説明会という形で新入生を迎えたが、その後も休校は続き、５月下旬にようやく登校可能日を設定することができた。

(ｴ) 休校期間中は課題や配布物を郵送、学習動画(スタディサプリの動画・本校教員が作成した動画)の視聴を促し、学習面の遅れが出ないようにした。

～本校理科教諭の作成した化学の動画の一例を上映～

ただ、この取組を通して、ICT 環境の不足等、本校のハード面の弱さが明らかとなった。

(ｵ) 年間行事計画では４月、５月の予定は軒並み中止。４月の東高祭や６月の東西大会も中止となった。今後は７月 31 日まで登校、夏休み後８月 26 日から始まる。現在、休み時間を５分延長し、手洗いの徹底を図っている。引き続きマスク着用や清掃徹底等、感染拡大防止に努めたい。

(ｶ) 単位制、キャリア教育、SSH が本校の特色である。

(ｷ) 地域交流やふるさと貢献事業も積極的に行っているが、今年度はできていない。

(ｸ) 大学入試合格者数　国公立大学現役合格 189 名は過去 10 年では３番目に多い数字。

② SSHについて （特任専門官、SSH推進部長）

(ｱ) 本校は令和２年度から５年間、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定された。

(ｲ) テーマは「世界を牽引する人材育成のための国際的な課題研究と科学倫理探究のロールモデル作成」であり、２月に研究発表を行う。

(ｳ) 本校SSHの特長は１年次生の段階では全員が対象であることということ。

(ｴ) ２，３年次では理系が主な対象となり、２年次ではリケジョの育成やオーストラリア研修、科学倫理教育などに力を入れる。３年次では国際学会での発表に挑戦する。

SSH通信にある３つの挑戦

１ 地球科学を中心にした国際的活動への挑戦

２ 理系女子の育成と国際的な活動への挑戦

３ 将来に向けて身に着けておくべき科学倫理感の育成

(ｵ) 今年度は10/27中間発表、11/22教員対象科学倫理研修会、２/９成果発表会の日程が決定している。

(ｶ) ICT環境の整備が大きな課題

(ｷ) 昨年度、ひょうごスーパーハイスクールの指定を１年間受け、１年次全員で探究活動を行った。科学部が全国的な研究発表で優秀な成績を収めたことなどが認められ、SSHの指定を受けることができた。

(ｸ) 多くの学校が理数科など一部の生徒に対してSSHの指定を受けているが、本校のように１年次生全員が指定を受けて活動するのは珍しい。

(ｹ) 今年度も科学部が日本環境科学学会で全国２位の賞を受賞している。

③ 学校関係者評価 （学校評価委員長）

(ｱ) 今年度実施を予定している学校評価については、例年６月に実施している生徒の授業アンケートは、９月または10月ごろに延期して行う。

(ｲ) 今年２月全職員を対象に行った「令和元年度学校評価(職員評価)」から「どちらかというとできなかった」「できなかった」という回答が多かった７項目(職員から見た本校の課題)

「課題研究等を通して自ら調べてまとめあげたり、報告・発表したりして、問題解決能力を育成する。」

「体験的活動を取り入れ、生徒が自主的・主体的に立案計画し、学ぶ喜びや達成感が味わえるように見守り支える。」

「生徒の興味・関心、適性、進路を把握した上で、そのニーズに合った学習テーマを設定し、全教職員が協力する。」

「作品や提出物等から生徒の成長・変化をみるなど、評価方法を研究し、各教科・科目に適した評価方法の導入を図る。」

「各教科で個別指導・グループ指導・一斉指導等、効果的な指導形態を研究し、実践する。」

「地域貢献活動・ボランティア活動等への積極的な参画を促し、地域に奉仕する心を育成する。」

「教育活動の中で、環境とそれに関わる問題や、環境に対する人間の責任と役割を理解させる。」

について、これらを改善するために、昨年度から取組と今年度からの取組について説明する。

「自ら調べてまとめ、報告・発表、問題解決能力の育成」、「体験的活動や自主的・主体的に立案計画、達成感が味わえるように」というキーワードに関する課題については、昨年から行っている探究活動で、生徒は主体的に研究テーマを設定し、仮説を立てそれを検証するための実験計画を立てたり、野外での調査体験をしたりしながら、課題解決につながるステップを工夫してクリアしていくという流れを通じて、達成感を感じることができる。

「生徒の興味・関心、ニーズに応じたテーマ設定」、「効果的な指導形態の研究」という課題に関しては、SSH 指定を教員にとっても大きな転機と捉え、探究活動に多くの教員に関わってもらう。課題研究の指導経験がない教員も多いが、生徒の主体的な活動を見守る中で、生徒の成長を感じる場面も多くなり、教員自身の指導の見直し、改善にもつながると考えられる。

「評価方法の研究」については、探究活動で毎時間、生徒の活動についてアンケートを実施する。また、探究活動の成果を正しく評価できる方法等を含む本校の評価システムについて、研究・開発していく。

「地域に奉仕する心の育成」と「環境教育」に関しては、本校 SSH の柱である「地球科学」を中心とした自然科学教育には SDGs を踏まえた課題の設定や地域社会に対する貢献の必要性も含まれている。また、本校の研究成果は地域や社会、他校などに還元していくことで、この課題の改善を図っていく。

質疑応答

【委員】

・SSH は兵庫県内ではどこの学校が指定を受けているのか。

【担当教員】

・兵庫県は全国的に見て多い方で、今年度は、明石北高校、尼崎小田高校、小野高校、加古川東高校、神戸高校、三田祥雲館高校、宝塚北高校、龍野高校、豊岡高校、姫路西高校、姫路東高校、神戸大学附属中等教育学校、武庫川女子大附属高校、六甲アイランド高校の 14 校が指定を受けている。

(4)　意見交換　「111 年目からの本校に期待すること」

【委員】

コロナによりコミュニケーション不足が起こりがち。学習動画の話があったが、生徒側の環境はどうか？ICT 機器の整備も必要だと感じる。

アンケートで「できていない」という項目ばかり取り上げていたが、できないことをやるのは本当に大変なことである。東高は昔から良い学校なので、良い評価にもっと目を向け、そこを伸ばしていく方が大切ではないか？

【委員】

この状況の中で頑張る生徒、先生が素晴らしく感激している。素晴らしい入学式、卒業式が続く限り、東高の未来は安心できると感じている。

【委員】

SSH の予算はどのようにして決定されるのか？各学校一律か？

【校長】

何年目かということで違ってくる。基本的には５年でひとくくり、３年目の中間発表で評価されその次の５年間も指定を受けられるかが決まる。不採用になっている学校も多数ある中で本校と

姫路西高が両方指定を受けられたことは、県教育委員会の支援と本校の申請した内容のオリジナリティーが評価された結果だと思う。

【委員】

３年目でチェックされて…ということは、５年間は指定を受けられるということか。

【校長】

その通りだが、2 期分 10 年くらいは指定を受けたい。さらにその次も指定を受けようと思えば、過去の内容とは全く別の新しいものを組み立てて申請しなければ残れない。

県教育委員会で話題となっているのは「スティーム(STEAM)教育」である。サイエンス(Science/科学)、テクノロジー(Technology/技術)、エンジニアリング(Engineering/工学)、アート(Art/芸術)、マセマティックス(Mathematics/数学)の頭文字をつなげた造語で、数学・科学の基礎を身につけた上で、技術や工学を応用して、問題に取り組む「STEM(ステム)」にアートの感覚を活用して問題解決する、このために必要な能力を統合的に学習することが「STEAM 教育」である。

SSH 指定によって探究活動が活発になる中で、本校も「STEAM 教育」を参考にした教育の方向を目指したい。

【委員】

科学と言えば自然科学の他に人文科学もある。自然科学ばかりを取り上げるのではなく、バランスよくやってほしい。テレワーク、オンラインなど画面上でのコミュニケーションはフェイストゥーフェイスで実際に顔を合わすのとは異なる。ここに危機感を感じている。効果ばかり追求するとどこかにしわ寄せがくる。東高の良い点、変わるべきところをしっかり認識して頑張ってほしい。

【委員】

オンラインでの授業の話と ICT 環境の弱さの話があったが、第２波、第３波に備えて子供たちのために動けるようにしていただきたい。

【委員】

他の SSH 指定校の課題

他校の SSH を見ていると、ある特定の、あるいは一部の生徒だけがやっている。例えば、大学でやるような研究を高校生たちがやっていることがある。その時はすごいが、生徒はあとに何も残らないことがある。つまり、大学入学時には２年ほど先を進んでいる感じだが、いつの間にか周りの学生と同じになってしまう。学生に聞くと、同じになってしまわない何かを身につけておきたかったと言っている。SSH の学校は、「あれをやった、これをやった」と外へのアピールに必死になるが、中身が疎かになっていることが多い。

東高生と東高に対する思い

東高科学部の近年の成果や、以前自身が東高で指導した頃の経験を思い返すと、やはり生徒の潜在能力は高いと感じる。これを十分に生かせればよいと思う。SSH を支えるのは先生方なので、SSH をうまく利用して目標とした力が生徒にきちんと身につくような仕組みづくりをしてほしい。

(5)　諸連絡

①　次回開催予定　11 月 18 日(水)　14:30～

１週間前程度には資料を送り、会議における論点を事前にご覧いただいたうえで、当日は活発なご議論をいただきたい。特に次回は、東高にとって良い点(変わらなくてよい点)、良くない点(変

わるべき点)を明らかにしていただき、今後の学校運営に活かしたい。

② 事務長から

ふるさと寄付金、ふるさと納税は施設・機器の充実に使わせていただいている。今後もご協力をお願いしたい。

トイレの改修が進んでいる。校舎東トイレは７月上旬完成、その後西トイレに移り、11 月ごろには完成予定。

5 閉会挨拶

【校長】

ネットで会議することにおいて唯一良かったのは、「空気を読まなくてよい」ために自分の考えをはっきりと話すことができた点だと聞いている。しかし、集団で議論することが大切だというのは変わらない。

私は、生徒には、どこの大学に行くかに関わらず、社会で通用する人間になってほしいと考えており、それを目標にやっていきたい。

先ほどもご意見をいただいたが、本校 SSH は自然科学のみを探究するのではなく、人文科学や社会科学といった分野についても積極的に探究する。また、年次全体で探究活動を行うことが本校 SSH の重要なポイントであり、多くの生徒が様々な考え方やものの見方に触れられるよう、11 月 24 日に上野千鶴子東大名誉教授、２月１日には玄田有史東大教授、12 月 14 日には京都の帯職人山口源兵衛氏などの講演を予定している。コロナの時代で元気のない生徒に生きる希望と元気を与えるきっかけにしたいという思いもある。もし、他にも良い方がおられたら教えていただきたい。